

コロナウイルス文献情報とコメント(拡散自由)

2023年1月10日

BMJ:

ワクチンの不平等と躊躇（ちゅうちょ）：両方とも対策が必要

【松崎雑感】

人新世の最後の感染症が新型コロナであるはずはありません。毎年2種類ずつ、人畜共通感染症が増加しています。新たな病原体の感染方式に適合した非薬物的感染防止対策が必要であるとともに、ワクチンによる対策は最大の重要性を持っていると思います。

国際協力が不足しているために、ワクチンはあっても必要な国や地域に送られないという問題の解決が重要です。それとともに、「ワクチンは毒だ」と言う非科学的な反ワクチン言説に対する対応も重要と考えます。

ワクチンの不平等と躊躇（ちゅうちょ）：両方とも対策が必要

Lazarus JV, Karim SSA, Batista C, Rabin K, El-Mohandes A. **Vaccine inequity and hesitancy persist-we must tackle both.** **BMJ**. 2023;380:p8. Published 2023 Jan 3. doi:10.1136/bmj.p8

新型コロナワクチンの分配が不公平であるという世界的問題が解決されずにいる。

2022年4月のBMJ Global Healthの論説で、われわれは、ワクチンの不公平を解消するには、ワクチンの廃棄量を減らす対策が重要だと述べた。

国連とWHOの機関は、ワクチンアクセスの不公平が継続していることに注意を喚起している。

WHOは新型コロナパンデミックが依然として初期段階にあると考えている。

不幸なことに、低中所得国では、ワクチンアクセスの不公平が引き続き解決を迫られる課題となっている。**低所得国で1回以上ワクチンを受けた者は24.6%に留まっている。**

ワクチン接種率の低さは、ワクチンアクセスが容易である国や地域でも問題となっている。

特に新型コロナ死亡率が低く、**反ワクチンプロパガンダ**が強力に行われている地域で著しい。

ワクチンは毒だ、専門家の言うことを信ずるな、コロナはただの風邪だというキャンペーンを盛んに行っている。

当局と製薬会社への不信がワクチン躊躇を一層募らせる。公衆衛生対策が不満足にしか行われてこなかった貧困地域や被差別地域で特にそれが著しい。

ワクチン躊躇の解決に向けて

2022年11月、112か国386名の多分野の専門家が共同で、コロナパンデミック収束に向けた56項目の提言を発表した。

本誌の要請に基づいて作られた提言の最重要3項目として、すべての国で「ワクチン-プラス」アプローチを行うべきだという項目がある。つまりワクチン接種推進 + マスク着用・換気徹底・抗ウイルス治療推進・感染者とその家族に対する経済的支援である。

このアプローチを成功させるには、世界のどの地域でも十分な量の効果の高いワクチンを使用できるように国際的な連携を強化する必要がある。

ワクチンの特許と製造テクノロジーの開放、ワクチン流通システムの改善が必要となるだろう。また効果が長期間続く有効性の高いワクチンの開発も必要となる。

しかし、ワクチン供給サイドの対策だけでは不十分である。ワクチン接種希望者を増やすことが必要である。

ワクチンが行き届いていない国や地域もあるとはいえ、世界全体としてはワクチン接種希望が頭打ちであることが問題だ。

ワクチン躊躇がこれをもたらしている。したがって、ワクチンと保健当局に対する信頼性を再構築することが最も必要である。

現行のワクチンに重症化と死亡の防止効果がある一方、リミテーションもある事を分かりやすく説明する必要がある。

ワクチンの使用期限をにらみ合わせて、廃棄をできるだけ減らし、供給体制を安定させるために、政府、製薬企業、ヘルスシステムの協調的作業が必要である。不足地域へのワクチン供給と保存をコーディネートする国際機関も必要である。

コロナパンデミックから3年が過ぎた現在、これらの問題を国際的に解決するための体制が整備されていないことは、誠に残念である。

国際的な通商と健康問題を扱う機関は、一刻も早く安全で効果の高いワクチンを必要な地域に必要な量を提供できるように努力すべきである。

ワクチンは「ワクチン・プラス」戦略の中心である。ワクチン躊躇によってワクチン接種率が低いまま経過している大変な状況を打開するためには、反ワクチンキャンペーンを乗り越えて、人々に正しい情報を伝え、ワクチンのロジスティクスを整備することが必須である。